

7x847

152
1
05

松井直誠解

刑法附則詳解

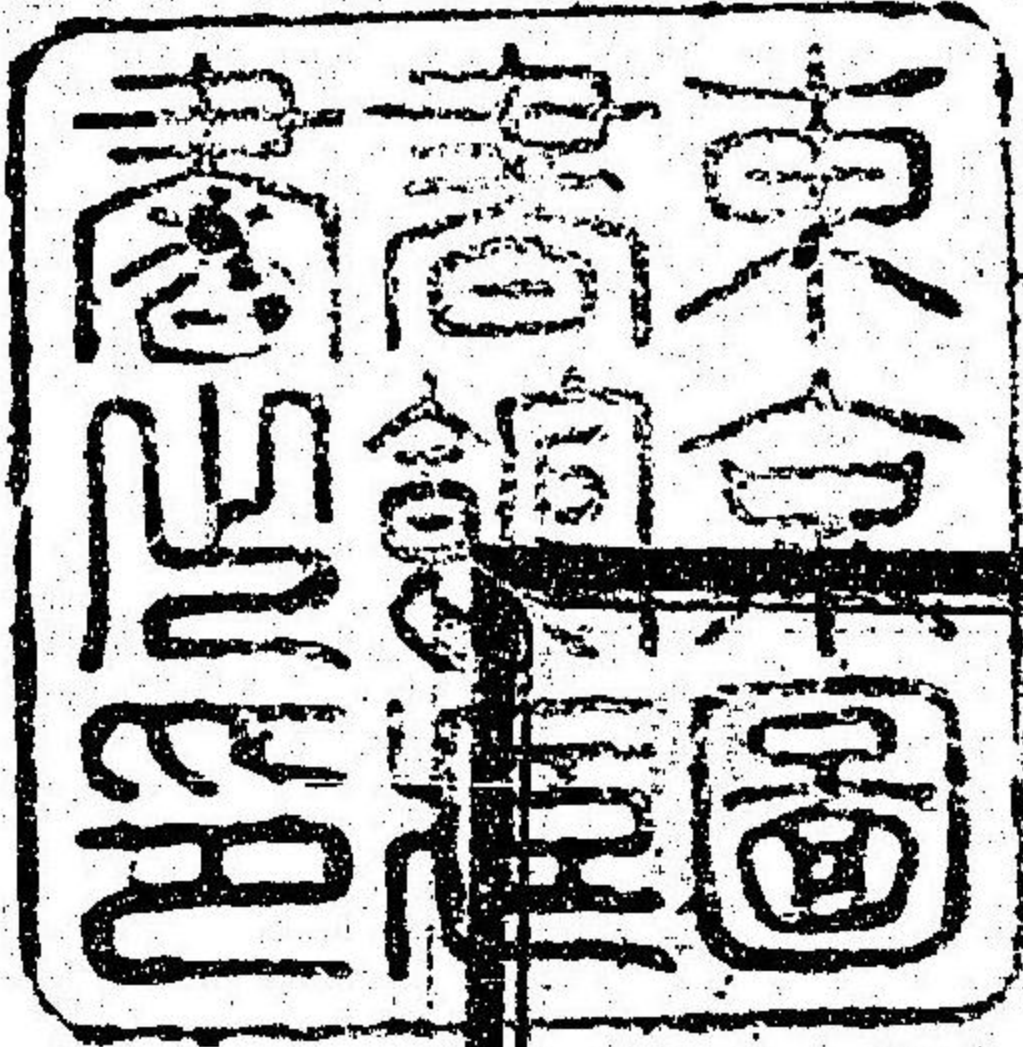
京都三輪堂發行

特47
382

第六拾七号
刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一
日ヨリ之ヲ施行ス
右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月十九日

太政大臣三條實美
司法卿 大木喬任



刑法附則註解目錄

第一章 主刑執行

〔自第一條至第卅一條〕

第二章 監視

〔自第卅一條至第卅七條〕

第三章 假出獄及特別監視

〔自第三十八條至第四十七條〕

第四章 刑事裁判費用

〔自第四十八條至第五十三條〕

第五章 賠償處分

〔自第五十四條至第六十三條〕

刑法附則註解

第一章 主刑執行

〔註解〕主刑トハ刑法第七條第八條第九條ニ記載シタル

死刑以下拘留科料ニ至ルヲ指シテ云フモノナリ

蓋主刑ニ二箇ノ差別アリ一ハ直チニ犯人ノ身体

ニ及フ刑ナリ一ハ犯人ノ財産ニ及フ刑ナリ

執行トハ裁判確定シタル後其裁判宣告ノ明文ニ

因テ其刑ヲ執行行フヲ云フ則刑法第六條ニ執行

ハ之ヲ宣告ストアリ又治罪法第四百五十九條ニ

刑ハ裁判確定ノ後ニ非ラサレハ之ヲ執行スベカ

ラストアリ

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ
 獄司刑場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キ
 事告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其時限
 ハ午前十時前トス

〔註解〕死刑トハ其首ヲ絞ルヲ云フ而シテ之ヲ執行スルハ
 司法卿ヨリ命令アリタル時三日内ニ行フモノナリ其執
 行ヲ爲ス官吏ハ刑法第十二條ニ但シ規則ニ定ムル所ノ
 官吏臨檢シトアリテ其誰タルヲ指シ定マス故ニ本條
 ニ於テ裁判所ノ檢察官書記獄司タルヲ定ムタルモノ
 ナリ蓋執行ノ時官吏ノ立會ヲ爲スハ專ハラ獄丁ニ任セ
 カル所以ナリ何トナレハ或ハ殘忍ノ行ヲ施サントテ恐

テナリ其執行ノ時限ヲ午前十時前ト定ムタルハ凡ソ午
 前十時迄ハ常ニ世間靜謐ニシテ假令死刑人アルモ人民
 裁判所及ヒ獄舎ノ門前ニ群集雜沓スルヲ少シ歐州一二
 ノ國ニ於テモ死刑ハ昧且ニ執行スルモ又同主義ニ出テ
 タルモノナリ

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關
 スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可
 ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

〔註解〕刑場ノ警戒ヲ嚴ニスル所以ハ従前ノ如ク公衆ニ示
 シテ死刑ヲ行フノ制ヲ廢シ獄内ニ於テ執行シ公衆ノ縱
 覽ヲ防キタレハ自ツカラ刑場ノ警戒ヲ嚴ニセサルベカ

ラス又國事犯内亂ニ關スル犯罪及ヒ兇徒聚衆ノ犯罪ノ如キハ必ス殘黨アルモノナリ而シテ其死刑ニ處セラルモノノ如キハ固ヨリ主魁者多キニ居ル故ニ或ハ殘黨ノ切迫心ヨリ其犯人ヲ奪フ等ノヲナキテ豫防セシモノナリ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラストハ犯人ノ親屬其臨終ヲ認メント欲シ或ハ犯人ノ冥福ヲ祈ル説教ノ僧侶ノ如キモノヲ云フ

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

〔註解〕本條ハ死刑ノ執行恙ナク畢リタルヲ証明スル爲

メ治罪法第四百六十三條ニ基キ其立會タル裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司等連名調印シテ其裁判所ノ檢事局ニ通報スルヲ云フ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

仁孝天皇祭

神武天皇祭

六月大祓

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天長節

後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

〔註解〕本條ニ列記シタル祭日ハ刑法第十四條ニ在ル大祀令節國祭ノ日ト云フモノナリ其月日ハ歴ニ從フ可シ抑此日ニ於テ人民上下舉テ慶賀ヲ爲スノ日ナリ而ルチ死刑ヲ行ヒ一家ノ悲哀傷悼ヲ爲サシムルニ忍ヒサルニ依

此當日死刑ヲ行フヲ禁シタルナリ

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシ

〔註解〕本條ハ刑法第十五條ニ〔上略〕婦女懐胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非ラサレハ刑ヲ行ハストアリ唯本犯懐胎ナリト陳述スルノミヲ以テ其執行ヲ停ムルニ非ラス何トナレハ病氣ニ由テ腹部ノ膨脹シタルモノナキニ非ラス故ニ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ病ニ非ラスシテ全ク懐胎ナルヲ醫師及

ヒ穩婆之ヲ証言シタル時ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ司法
卿ニ上申シテ執行ヲ停メ産後一百日ヲ待テ又更ニ司法
卿ノ指圖ヲ受ケ執行スルコト云フ蓋刑ハ一人ニ止テ無
罪ノ胎兒ニ及カ、ルハ法律ノ原則ナリ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊
請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スルコトヲ得

〔註解〕抑死刑ノ遺骸ト雖モ苟モ之ヲ棄ルノ理ナシ故ニ行
政官ニ於テ埋葬スルキコトハ當然ノコトナリ然レモ預メ一
定ノ場所ヲ設ケサレハ時ノ評議ニ依テ埋葬ヲ叨リニス
ルノ不都合ヲ生ス可シ之ヲ衛生上ヨリ視レハ人家ヲ隔
タル場所ニ一定セサレハ自然健康ニ害ヲ來スコトヲ免レ
ス故ニ本條ヲ設ケ其場所ヲ一定セシムルナリ

若シ親族故舊乞フモノアレハ獄司下付シテ埋葬セシム
ルハ情理ニ適フタルモノナリ然レモ刑法第十六條ノ如
ク式ヲ用ヒテ葬ムルコトハ許サ、ルナリ

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時
ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルコトヲ
得

〔註解〕本條モ亦情理ニ適合シタル法方ナリ死刑ノ言渡ヲ
受ケ而シテ其執行ニ就ク迄ニ其親屬故舊ニ接見スルコ
ト許スハ本犯死跡相續財産贈遺其他家政ニ關スルト本
犯死後祭祀ニ關スル等都テ百般ノ遺言等ヲ囑託スルコ
ト得凡ソ人ノ死ナントスルヤ其言ヤ好シ左スレハ親族

故舊ニ接見ヲ許スモ更ニ害アルコトナシ特リ害ナキノミ
ナラス一家ノ紛争ヲ豫メ防クニ足ルノ益アリ

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職
業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公
告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前
犯罪ノ地
犯人住居ノ地

〔註解〕凡ソ刑罰ヲ行フノ主義ハ一人ヲ罰シテ万人之ヲ懼
ルト云フ可キ目的ニ外ナラス左レハ本條ノ如ク死刑ニ
處セラレシ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑

名ヲ記載シ榜示公告スルハ所謂兇殘ノ甚シキ者ヲ待ツ
所以ナリ夫レ刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前及ヒ犯罪ノ
地ニ在テハ終始其犯罪ノ景場ヲ見聞シタル者多シ又犯
人住居ノ地ニ於ル實犯人ヲ知ル者又多キモノナレハ
其榜示ヲ觀テ人民自カラ感觸ヲ生シ惡ヲ觀テ自分ニ戒
ムノ心ヲ生セシムコトヲ欲スルナリ蓋死刑ノ執行ヲ公
衆ニ示シテ人民畏懼シ心ヲ發セシムルハ道理ニ合ヒ
タルコトナレモ實際ニ取テハ死刑ヲ觀ル時ハ却テ殘忍苛
酷ニ馴レ易シ又惡ヲ生ヌルハ心モ容易ニナルモノナリ
故ニ刑法第十二條ノ如ク獄内ニ於テ之ヲ執行スレモ又
其公告ヲ爲スハ前述ノ理ニ基キタルモノナリ

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄

司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

〔註解〕徒刑流刑ノ裁判言渡ヲ受ケタルモノハ何レモ重罪ナリルヲ以テ内地ニ置カス嶋地ニ發遣スルモノナリ何トナリハ逃走ノ憂ナキカ爲メナレハナリ而シテ其島嶼塲所ノ一ハ行政ノ長官則内務卿ニ於テ別ニ之ヲ撰定セラル可シ〔本邦ニ於テハ島嶼ハ自由ノ一ナリ伊豆七嶋薩摩五島ノ如キ〕故ニ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ護送スルモノナリ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ地ニ護送ス可シ

〔註解〕徒則ハ普通犯ノ刑ニシテ服役ノ法アリ而シテ島地

ニ於テ服役ノ種類如何ニ至テハ其發遣所ノ模様ニ由リ別ニ定メラルヘシ然レモ獄外ニ於テ例ヘハ鑛業ヲ役トシ港灣ヲ開浚シ或ハ荒蕪ヲ開拓スルカ如キ難事ノ役ニ服スルコトアルヘキコトヲ定メタルモノナリ

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

〔註解〕流刑ハ國事犯ノ刑ニシテ服役ノ法ナシ然レモ空ク日月ヲ閑過スル時ハ經濟上ヨリ視ルモ甚々快ナラス又身体ヲ勞スル時ハ健全ヲ得且ツ自然ニ悔悟心ヲ生スルコト容易ナリ故ニ自カラ工業ヲ爲サント請ヘハ有形ノ業即チ耕作職工等無形ノ業即チ寫字著書等ノ業ヲ許スハ

大ニ益アルモノナリ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

〔註解〕無期流刑ノ囚ハ五年有期流刑ノ囚ハ三年ヲ經過スレハ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ居住スルコトヲ得即チ刑法第廿一條ノ主義之レナリ而シテ同條ニ行政ノ處分ヲ以テトアリ本條内務司法ノ兩卿ハ則行政官ナルヲ以テ其兩卿ニ上申シ許可ヲ受クヘキモノトス

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家属ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

〔註解〕徒刑ノ囚能ク獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ刑法

第五十三條ニ依リ假出獄ヲ許サル、コトアリ又流刑ノ囚ハ前條ノ如ク幽閉ヲ免サレタル時ハ父母ノ如キ待養ヲ要スル者又ハ婦或ハ兄弟姉妹甥姪ノ如キ尤モ近親ノ親屬ヲ招キ同居生産ヲ營ムコトヲ得然レモ其親屬ニ於テ良善ノ所爲ヲナサス規則ヲ守ラサル時ハ其島地ヲ追ヒ出サルコトアル可シ
路費ヲ自カラ辨スル所以ハ本ト假出獄モ又ハ幽閉ヲ免サルモ皆政府ノ恩典ニ出テ犯人ヨリ求ムル權利ナキモノナリ故ニ自カラ之ヲ支辨スルハ當然ノコトナリ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル

者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ
己ムトヲ得サル事故アル時ハ獄司ニ請テ限外ニ出ル
トヲ得

〔註解〕本條ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレ島地ニ居住スル
ヲ得ルト雖モ獄司ノ監督ヲ免ルコト能ハス故ニ監獄近傍
ノ地ヲ限リ居住セシム必竟獄司監督ニ便ナルノミナラ
ズ囚人ニ於テモ自カラ勉勵良善ノ行爲ヲナスノ益アル
ヲ以テナリ然レモ若シ自己ノ作業又ハ同居親屬ノ多寡
或ハ疾病等ノ都合ニ依リ止ヲ得ス地ヲ移サ、ルヲ得カ
ル事故アル時ハ獄司ニ乞フテ其限外ニ出ルコトヲ得ルナリ

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯

タル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ
執行ス可シ

〔註解〕本條ハ刑法第九十五條ノ如ク若シ流刑ノ囚幽閉ヲ
免セラレ再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ其定役ニ服スル刑ト定
役ニ服セサル刑トニ由テ其執行ノ前後ヲ定メ假令刑期內
限内ト雖モ直ニ島地ニ於テ其刑ヲ執行スルコト云フ蓋
治罪法ノ主義ニ於テハ犯罪ノ地ヲ以テ裁判ノ管轄ヲ定
メタルハ直ニ島地ニ於テ其刑ヲ執行スルハ便利ノ方法
ナリ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服
セシムトヲ得

〔註解〕本條ハ第十條ノ主義ト同一ナリ然レモ定役ニ於テ
寛嚴ノ差別アルノミ

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サ
ント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

〔註解〕本條ハ第十一條ノ主義ト同一ナリ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者
後犯ノ刑期百日内ハ工錢ヲ給與セス

〔註解〕刑法第廿五條ニ〔上略〕但現役百日内ハ給與ノ限ニ在
ラスト此主義ヲ解スレハ本條モ亦自カラ了解スルヲ得
ヘシ抑百元以下ハ囚人其業ニ練熟セスシテ却テ得ル所
失フ所ヲ償フニ足ラス故ニ給與セサル所以ナリ然ラハ

將サニ百日ヲ過キントスルニ當リ又罪ヲ犯シ後犯ノ刑
期猶百日内ナル時ハ前犯刑期ニ在テ既ニ其業ニ練熟
シタルモノト做シ後犯ノ百日内ハ工錢ノ幾分ヲ給與
スルニ似タリト雖モ該條ノ精神ヲ督フルニ一罪ニ係ル
刑期中現役百日内ハ給與セスト云フ意味ナレハナリ
若シ後犯ノ百日内ハ給與スルモノトセハ初犯ノ刑期
滿限ノ後再ヒ罪ヲ犯シ現役百日内ニ係ル工錢ヲモ亦
給與セサル可カラサル道理ナリ故ニ本條ニ總令服役限
内更ニ罪ヲ犯シ定役ニ服スルモ後犯ノ刑期百日内ハ
工錢ヲ給與セサルヲテ說明シタルニ過キヌ

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ

及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

〔注解〕囚人ニ給與スル工錢ノ金額及ヒ之ヲ下ケ渡シ又ハ領置スル方法ヲ刑法及ヒ刑法附則ニ記載スルコトハ實ニ難キコトナリ何トナレハ獄舎ノ地位ニ因テ自カラ其入額ヲ異ニスレハ預メ一定スルコト能ハス故ニ別ニ監獄ノ規則ニ從テ定ムルモノトス

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徴收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

〔注解〕罰金科料ノ宣告ヲ受ケテ納完スルコト能ハサル者ハ刑事ノ禁錮ヲ以テ罰金ニ交ヘ一日ヲ一圓ニ折算スルコト

ハ既ニ刑法第廿七條ニ定メタリ而シテ若シ未タ納完セサル前ニ當リ犯人死去スレハ之ヲ徴收セス何トナレハ刑ノ消滅ハ犯人死去ニ因レハナリ之レニ反シテ其罰金科料ヲ宣告シタル上ハ政府ハ犯人ニ對シテ民事上ノ債主權ヲ有ス故ニ本犯死スルモ其財産ニ對シ徴收スルコトヲ得ト謂フモ又一理ナキニ非ラス然リト雖モ到底其相續人ニ及スハ些ト愉快ナラサルヲ以テ本條ノ如ク定メシナリ

第二章 監視

〔註解〕監視トハ刑法第十條第四項ニ記載シタル附加刑ノ一ニシテ主刑ニ附加スルモノナリ蓋重罪ニ附加スルモ

ノハ刑法第三十七條ノ如ク別ニ宣告ヲ用ヒス本刑ノ短期三分一ノ監視ニ付シ又輕罪ニ附加スルモノハ同三十八條ノ如ク各本條ニ記載シタル分ニ限リ別ニ宣告ヲ以テ之ヲ附加スルモノトス

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

〔註解〕監視トハ其警察官ヨリ其行狀ノ監護視察ヲ受ケ後來身体ノ自由ヲ束縛セラル刑ナリ之ヲ簡單ニ謂ヘハ社會ノ爲メニ再犯ヲ豫防シタルニ過キス特リ身体ノ自由ヲ束縛セラルノミナラス財産上ニ在テハ間接ニ影響

ヲ及スヲ抄シトセス何トナレハ刑餘ノ人ハ社會人民是ト交接スルヲ嫌フモノナレハ自然ニ財産上ノ罰ヲ蒙リシモノト謂フモ亦誣ヒサルナリ

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止メ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

〔註解〕監視ニ付スヘキモノ既ニ主刑タル徒流刑懲役禁獄禁錮等ノ刑期終リタル時ハ獄司ヨリ豫メ定メタル犯人住居ノ地ノ警察所ニ護送シテ規則ノ通り監視ヲ執行セ

シム若シ期滿免除トテ刑法第五十八條以下ニ定ムル所ノ年限ヲ經過シ主刑ヲ免シ又ハ第百廿六條及ヒ第百九十二條ノ如ク主刑ヲ免シテ只監視ノミニ付スルモノハ其裁判所ノ檢察官ヨリ其住居ノ地ノ警察所ニ護送スルキナリ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

〔註解〕監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書トハ何月何日ヨリ監視ニ付ス可キ算ヲ起シ何月何日ニテ其期限ノ滿ルヲ云フ而シテ其起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ裁判宣

告書ノ謄本ハ警察官於テ犯人ノ將來ヲ觀察監視スルニ必用ノモノナレハ之ヲ傳遞スルニ口述ヲ以テスルヘカラス必ス文書ヲ以テ証トスヘキヲ云フ

第廿四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過フル者ハ獄司若クハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ

第廿五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直ニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ

從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ送送ス可シ

〔註解〕例へハ犯人兵庫縣下ノ者アリ京都ニ於テ主刑ノ執行終リタル時ハ獄司若クハ檢察官ヨリ其犯人ヲ最近ナル警察所即チ播州ニ住居スル者ナレハ之ヲ大坂府下ノ警察ニ送り若シ丹波ニ住居スルモノナレハ之ヲ龜岡若クハ園部ノ警察所ニ護送シ而シテ其警察所ヨリ里程ヲ計リ日數ヲ定メ旅券ヲ付與シ其住居ノ地ノ警察所ニ差出カシムルノ類
但書ハ第三十壹條ノ解ニ就テ視ルヘシ

第廿六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限

間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付スヘシ

〔註解〕既ニ第廿三條ノ如監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ添へ第廿四條及ヒ第廿五條ノ手續ヲ經テ犯人住居ノ地ノ警察所ニ到レハ次ノ條ニ記シタル四個ノ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票証ヲ下付セラ
ルモノトス

第廿七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件

ヲ遵守ス可シ

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ
監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ

己ムトテ得サル事故アリテ警察所ニ到ルト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルトヲ許サス

三事故アリテ其住居ヲ轉移セシムル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四擅ニ他ノ地方ニ旅行スルトヲ許サス若シ己ムトテ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

〔註解〕本條第一項ノ主眼ハ其謹慎ナルトヲ表スルニ在リ

前解ノ如ク監視ハ其行狀ヲ良善ニセシムト欲スルニナリ故ニ毎月二度懈リナク所轄ノ警察所ニ到リ平常ノ所爲不行跡ナキト表シ官吏ノ認印ヲ受クヘキモノトス若シ平常不行跡アル時ハ警察官ハ常ニ之ヲ監視觀察セシヲ以テ虚飾ノ陳述ヲ爲スト能ハス但疾病事故アリテ警察所ニ到ルト能ハサル時ハ代人ヲシテ其事由ヲ届ケシム然ル時ハ或ハ警察官臨時検査スルコアルヲ以テ必ス疾病事故ヲ証明セサル可ラス

第二項酒宴遊興ノ席ハ如何ナル場合ヲ同ハス譯テ人ヲ懈怠ニ誘導スルモノナレハ前項ノ謹慎トハ反對ノモノナリ故ニ之ニ會スルトヲ許サス又人民群集ノ場所

ニ禁會スルヲ許ササルハ或ハ危殆ノヲ醸成スルモ
 計リ難シ例ハ拘摸ノ憂ハ常ニ群集ノ場所ニ在ルモ
 ノナレハナリ蓋監視ノ刑ニ處セラレシ者ハ三府五港
 ノ如キ都會ニ住居スルヲ禁シ邊僻ニ住居セシムル
 チ好トスト説クモノアリ或ハ本項ノ如キト同一ニシ
 テ繁華ノ地ハ常ニ害ヲ被ムルモノ多キヲ慮テナリ
 第三項第四項ハ事故アリテ住居ヲ移轉シ又ハ擅ニ他
 ノ地方ニ旅行スル時ハ其犯人ノ行跡ヲ監視視察スル
 一能ハス故ニ其事由ヲ警察所ニ具申セシメ而シテ許
 可ヲ得ルキモノトス
 以上何レモ皆身体ノ自由ヲ束縛セラレタルモノナリ

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其
 家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

〔註解〕凡ソ治罪法ニ於テ人ノ家宅ヲ搜索スルトハ現行
 犯或ハ犯罪ノ証跡具備シタル上ニ非ラサレハ明リニ
 人ノ家宅ニ侵入スルヲ能ハス然レモ監視ノ刑ニ處セ
 ラレタルモノハ其平常ノ行狀ヲ視察スルカ爲メニ時
 トシテ警察官家宅ニ臨檢スルヲアリ之レ則自由ノ權
 利ヲ束縛セラレタルモノナリ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シ
 タル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二

十三條ニ記載シタル書類ヲ送送ス可シ

〔註解〕本條ハ第廿七條第三項第四項ノ精神ト同様ナリ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ

其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復

日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ

示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チ

ニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

〔註解〕監視ニ付セラレシ者ト雖モ商業職業ノ爲メニ他ノ地ニ旅行スルコトヲ許サ、レハ産ヲ營ムコト能ハス故

ニ之ヲ許可スルニ於テハ其里數及ヒ本人滞在スルキ時日ヲ開列シ旅券ヲ下付スヘキモノトス而テ其地ノ警察所ニ出テ住居身分職業年齢等ヲ記載シタル証券ヲ示スハ之レ其地ノ警察官ノ監視視察ヲ受ケシムルカ爲メナリ例ヘハ大坂ニ旅行スルト偽リ實ハ伊勢ニ行キ其踪跡ヲ隠サントアルヲ恐テ本條ヲ設ケタリ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞

シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證

書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差出ス可シ

〔註解〕前條ニ於テ滞在及ヒ往復日數ヲ限リ旅行スルコトヲ得ルモ臨時天災則抗拒ス可カラサル災害ニ係リ或

ハ疾病等ニ依リ其限定時日ヲ過キタル時ハ其由チ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ証據書ヲ受ケ理之トシテテ歸來ノ日住居ノ地ノ警察所ニ差出ストトス何トナレハ疾病天災ノ如キ本人意外ヨリ來ルモノニテ預メ期ス可カラズ故ニ其警察所ノ保証ヲ得ルヲ以テ足レリトス

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸著スル資力ナキ者亦同シ

〔註解〕監視ニ付スヘキモノ定リタル住居ナク或ハ親族

朋友等ノ引取ル可キモノナキ時又ハ住居アルモノト雖モ遠方ニ在テ歸ルニ旅費ナキモノハ懲治場ニ留置工業ヲ爲サシムルカ或ハ使役ニ供シテ犯人ニ住居ヲ得セシメ又ハ歸着ノ旅費ヲ得セシムル其法ナリ而シテ茲ニ二ノ利益アリ一ハ犯人ノ行跡ヲ監護スルノ便利之レナリ一ハ再ヒ罪ニ陷ラサルヲ保持スル之レナリ若シ住居ナキモノヲ放ツ時ハ之ヲ規則ノ如ク監察スルニ便ナラス又旅費ナキモノヲ歸ラシムル時ハ勢ヒ再犯ニ陷ラサルヲ得ス故ニ本條ヲ設ケシ所以ナリ

第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸著スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ

送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

〔註解〕前條ノ如ク住居ナキモノ及ヒ歸着ノ資力ナキモノヲ懲役場ニ留置スルハ止ヲ得サルニ出ルモノナリ若シ其監視限内親族朋友等引取人ヲ得ルカ或ハ旅金ヲ與フルモノアルカ又ハ工業使役等ヨリ生シタル資金ヲ得タル時ハ歸着スルヲ得例ヘハ罰金ノ言渡ヲ受ケ限内完納スルコト能ハスシテ禁錮ニ換ヘラレシモノ半ニシテ納完スルコト得ル時ハ禁錮ヲ免サルト一般ナリ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期

限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

〔註解〕監視ハ則チ附加刑ノ一ナリ故ニ縱ヒ刑期限内罪ヲ犯シ又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯スモ其初犯再犯ノ刑ヲ執行スルニ付テハ罪ノ輕重ニ依リテ其執行ニ前後アリ然レバ附加刑ニ至テハ一ナリ故ニ前後ノ監視ヲ通算シテ執行セシムルコト云フ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

〔註解〕刑法第廿七條ノ如ク罰金ヲ言渡サレ納完スル能ハスシテ一圓チ一日ニ折算シ禁錮ニ處セラレシ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入スルハ第三十三條

ノ場合ノ如ク懲治場ニ在ル日數ヲ監視ノ期限ニ算入
スルト同一ナリ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ
悔改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務
司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

〔註解〕既ニ第廿一條ニ記シタル如ク監視ハ犯人ノ行狀
ヲ改良セシメント欲スルニ在リ故ニ宣告ヲ受ケスシ
テ監視ニ付セラレシ者ト又ハ宣告ヲ受テ監視ニ付セ
ラレシ者トヲ問ハス能ク其規則ヲ守リ行狀ヲ改メシ
コトヲ認メシ上ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シテ行政ノ
長官ナル内務及上司法ノ兩卿ヨリ指圖ヲ受ケ假ニ監

視ヲ免スコトヲ得猶主刑ニ假出獄又ハ復權ノ例アルカ
如シ然レモ若シ不行狀ノ所爲アル時ハ再ヒ殘期ヲ監
視ニ付セラレ、コアリ

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移
スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從
フ可シ

本條ハ註解ヲ要セスシテ明瞭ナリ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

假出獄トハ刑法第五十三條ノ如ク既ニ刑ニ處セラレ
謹慎悔改ノ狀アルモノ其刑期ノ若干ヲ經過スレハ假
ニ出獄ヲ許サル、コアリ是則恩惠ノ法ニシテ受刑人

ヲ勤勵シ其入獄ノ日ヨリ善行ヲ爲サシムルノ益アリ
トス又特別監視トハ假出獄ヲ許サレシ者ニ限り通常
監視ヨリ一嚴層在ナルモノナリ

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ
其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出
獄ヲ許サレシヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ
受ク可シ

〔註解〕本條ハ刑法第五十三條以下ニ記載シタル所ニシ
テ特リ犯人ニ善行ヲ望ムノミナラス一般ノ罪囚ヲ獎
勵セシムルノ法ナリ抑有期無期ノ刑ヲ問ハス都テ犯
人獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ

ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシヲ
行政ノ長官即チ内務司法ノ兩卿ニ申請スルモノトス
則第三十六條ニ假ニ監視ヲ免サレタルト同一ナリ若
シ本條ノ方法ヲカツセハ獄則ヲ守ルモノト守ラサル
モノト同一ノ苦痛ヲ受ルコトニ至リ却テ犯人ヲシテ自
棄ノ惡心ヲ生セシムルコトヲ之レ恐ル

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票
ヲ犯人ニ下付スヘシ

〔註解〕假出獄ヲ許サレタルモノト雖モ未タ刑期中ノ者
ナルヲ以テ之ヲ証スルコト能ハス故ニ獄司ヨリ其證票
ヲ下付シ假出獄者タルコトヲ詳ニセシモノナリ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

〔註解〕本條第四項ハ刑法第五十六條ニ在ル如ク假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ更ニ出獄中ノ日數其刑期ヲ執行セシムルモノトス何ト

ナレハ假出獄ハ本ト法律ノ恩惠ニシテ犯人ノ求メ得ヘキモノニ非ラス然ルニ其恩惠内ニ在テ罪ヲ犯セシモノハ自カラ招キタル禍ニシテ其出獄中ノ日數ニ過リ執行セサル可カラス故ニ本項ノ明文ヲ記載シ犯人ニ下付スルモノナリ

第四十壹條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財產ヲ治メ若クハ職業ヲ營メントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

〔註解〕重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ主刑ノ終ルマテ自ラ財產ヲ治ムルヲ禁シタリ然レバ獄則ヲ謹守シ悔悛ノ狀アル者ニ假出獄ヲ許セシ上ハ刑法第十條第三

項ノ如ク治産ノ禁ヲ許サ、ルヲ得ス何トナシハ自宅
ニ在テ生營ノ進ナキヲ以テ其幾分ヲ許シ賣買貸借等
ノコトヲ爲サシメサレハ或ハ食困ノ餘リ再ヒ罪ヲ犯ス
ノ恐レアレハナリ故ニ自ラ財ヲ治メ若クハ職業ヲ營
ナムントスル時ハ警察所ニ申請シテ許可ヲ受クハキ
モノトス

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定
メンメ出獄ノ日獄司ヨリ其證票ノ謄本ヲ添へ犯人
ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セ
シム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二

十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一
條ノ例ヲ適用ス

〔註解〕以上ノ二ヶ條トモ第廿二條以下ノ手續ト取テ異
ナルコトナシ

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間
左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ
表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ
但疾病又ハ己ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ
到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スル
トナ許サス

三事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ
申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルト
ナ許サス

四往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルトナ許サス

〔註解〕本條モ亦第廿七條ト異ナルコトナシ然レモ通常ノ
監視ニ在テハ毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ヲ
表スルヲ以テ足レリトス然レモ特別監視ニ至テハ毎
週間一度警察所ニ出テサレヲ得ス又他ノ府縣ニ轉移
シ或ハ往復一日程ヲ過ルル間ニ旅行スルトナ許サ、ル

ハ元來特別監視ハ未ダ主刑ノ終ラサル者ヲ待ツ所ノ
監視ニシテ既ニ主刑ノ終リタル後附加スル監視ト異
ナルヲ以テ一層ノ嚴格ヲ加ヘタルモノナリ

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因
リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

〔註解〕本條ハ第廿八條ト異ナルコトナシ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者其期限満限ノ日ニ
至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證
票ヲ出シタル獄司ニ送送ス可シ
主刑満限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所

ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

〔註解〕假出獄中規則ヲ守リ刑法滿限ノ日ニ至レハ假出獄証票ヲ警察所ニ還納スヘキモノトス若シ主刑滿期

〔此内ニ假出獄中ノ期〕ノ後附加ノ監視ニ付スヘキ犯

人ナル時ハ更ニ第二章通常ノ監視ヲ付セラレ則第廿一條ヨリ第三十七條マテノ手續ニ依ルヘキモノトス

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ

本條ハ三十二條ノ例ニ從テ可キモノニシテ別ニ註解ヲ要セス

第四章 刑事裁判費用

〔註解〕刑事裁判費用トハ犯罪ノ故ヲ以テ生スル所ノモノニシテ第四十八條以下第五十三條マテノ費用ヲ云フ抑此費用ヲ拂フノ義務ハ刑法上ノ罰ニ非ラスシテ民事上ノ責ナリトス然レモ之ヲ刑法上ニ記載セシ所以ハ刑事裁判官便宜ニ依リテ處分スルニ在レハナリ

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

〔註解〕豫審トハ豫審判事ニ於テ犯罪ノ證據等ヲ取調ル
チ云フ公判ハ則裁判官ノ裁判ヲ爲スニ付呼出シタル
証人鑑定人等ニ給與スヘキ日當旅費止宿料等ヲ以テ
刑事裁判費用ト爲ス此費用ヲ擔當スルハ多ク犯人ニ
在リト雖モ被害人又ハ檢事ニ於テ擔當スルコトモアル
ヘキナリ

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五十錢

旅費一里拾錢

止宿料一宿貳十五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ

呼出ノ地ニ滯在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里
未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

本條ハ註解ヲ待タスシテ明ナリ

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求
アルニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第
百九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外
若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

〔註解〕証人ハ固ト人民ノ義務トシテ其罪証ヲ陳述セシ
ムルモノナリ故ニ醫師鑑定人通辨人トハ違ヒ日當旅
費等ヲ請求スルニ非ラサレハ給與セサルモノトス治

罪法第九十條証人ハ即時出庭ニ付テノ旅費日當ヲ要ムルコトヲ得トアリ又同第二百條ニ鑑定人及ヒ通事ニハ旅費給料其他相當ノ費用ヲ給當スヘシトアレハ自ツカラ別アルコトヲ知ルニ足ル然レモ若シ証人日稼ヲ以テ生業トス時ハ治罪法第九十條第二項ニ依リ旅費日當ノ外稼高ニ等シキ償金ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第五十二條 解剖舎密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

本條ハ前二條ノ解ト同主義ナリ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徴

收ス

〔註解〕裁判費用ヲ擔當スヘキ宣告ヲ受ケ未タ納メスシテ犯人死去セシ時ハ其相續人ヨリ之ヲ取立ルモノトス何トナレハ罪ノ消滅ハ犯人死去ニ因ルト雖モ裁判費用ハ民事上ノ義務ナレハ縱ヒ犯人死スルト雖モ其財産上ノ義務ヲ免ル可カラス故ニ其相續人ヨリ之ヲ取立ルモノトス

第五章 賠償處分

〔註解〕賠償トハ盜物ヲ徵收補償セシムルヲ云フ凡テ本章モ民事上ノ手續ナレハ刑事裁判官便宜ニ依リ取扱フカ故ニ刑法上ニ記載セシモノナリ

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トズ

〔注解〕贓物トハ盜ミ物其他不正ニ属セシ品ヲ云フ例ハ盜品未タ犯人ノ手ニ在ル時ハ直ニ盜マレシ主ニ還スト雖モ輾轉シテ廻リ廻リテ他人ノ手ニ在ル時ハ其被盜シ者ヨリ請求スルニ非ラサレバ裁判官ヨリ取立下付スルコトナシ舊律ニ贓物現在トハ贓賊ノ手ニ在ルチ云フト即現在ノ分ハ直ニ被害者ヘ下付シ他人ノ手ニ在ル時ハ直ニ引揚ルコトヲ得ス何トナレハ其不正品モ年長ク所有スル時ハ期滿得免ノ權ヲ得ルコトアリ又

被盜主ニ於テ縱ガ惜シカラサル品ニシテ却テ之ヲ請求スル爲メ費用ヲ掛ケルチ厭フカ如キコトアリ故ニ被害者ノ請求ヲ待テ追徴還給ノ處分ヲ行フモノトス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルコトヲ得ス
若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルコトヲ得

〔註解〕前條ハ贓物現在スル所ヨリ直ニ還給ヲ得ルコトヲ定メ本條ハ直ニ還給スルコトヲ得サレ場合ヲ定ム
 贓物轉轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ公商即公ケノ商人例ヘハ古着屋ニ於テ買求メタル衣類ハ縱ニ盜品ニ係ルト雖モ其買取主ヨリ直ニ引揚ルコトヲ得ス何トナレハ偽ナル商人ヨリ買取タルニ依ル故ニ其賣リタル公商人并ニ被盜人ヨリ其買取タル代價ヲ償ハサレハ其品ヲ還サシムルコトヲ得ス
 若シ公商ニ由ラスシテ買取タル物品不正品タル時ハ追給セラレヘシ例ヘハ古道具屋ニ於テ吳縣反物ヲ買取リ古着屋ニ於テ道具類ヲ買フタルカ加キハ之レ公

商ニ非ラサルヲ以テ之カ所有主トナルコトヲ得ス然レ別段賣主ニ對シテ償金ヲ求ムルコトヲ得レハナリ

第五十六條

贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者

其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ得ス但典物ト

シテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルコトヲ得

〔註解〕都テ知ルト知ラサルトヲ問ハス贓物ヲ貰ヒ受ケ又ハ抵當質物等ニ受ケタル者其品現在スル時ハ取揚ヲ拒ムコトヲ得ス何トナレハ完ク其品ノ所有主ト爲ルヲ得サルニ仍レハナリ然レモ抵當或ハ質物トシテ受取タル者ハ其質置主則犯人ナルカ又ハ世話人等ニ對シテ償金ヲ求ムルコトヲ得可シ

第五十七條

贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ル

ト否トテ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

〔註解〕交換トハ品ト品トチ交易スルチ云フ是又賣買ト

異ナルコトナシ故ニ第五十五條ト同一ノ處分スヘキモ

ノナリ

第五十八條

贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可カ

ラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ

請求スルコトヲ得

〔註解〕犯人既ニ贓物ヲ遺拂又ハ反物ノ如キハ切斷シ

テ衣類ニ縫ヒ其原質ヲ變シ識リ別ツコト能ハサルカ又

ハ其品輾轉シテ在リ先知レサル時ハ其犯人或ハ其損

害ヲ擔當ス可キ者ニ向テ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第五十九條

人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其

他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求ス

ルコトヲ得但失火ハ此限ニ在ラズ

〔註解〕人ヲ誹リ其人ノ名ヲ汚シ若クハ故意ヲ以テ人ヲ

殺シ又ハ打毆シテ傷ヲ付ケ或ハ過失ニテ人ヲ殺傷シ

タル時ハ現ニ目ニ觸ル、損害ヲ請求セラルコトナリ例

ニハ銃獵セント欲シ銃ヲ發シ人ヲ殺シタル時ハ其人

ノ家族ニ生涯養料ヲ與フルノ義務ヲ生スルカ如シ其

他凡テ自己ノ故意ニ出ルト又ハ懈怠相忽ニ出ルトチ

問ハス人ニ加ヘタル損害ハ必ス之ヲ償フ可キノ義務

アリトス然レモ失火ノ如キ之ヲ償ハシムルコト得ス
 何トナレハ類焼等ノ爲メ犯人ニ巨額ノ損害ヲ償ハシ
 ムル時ハ畢世之ヲ辨償スルノ期ナシ蓋失火ハ固過誤
 ニ出ルヲ以テ其人ニ加ヘタル損害ヲ負擔セシムルト
 云フ議論アレモ此事ニ至テハ民法契約ナクシテ生ス
 ル義務ト云フ處ニ就テ論究スヘキモノナレハ茲ニ贅
 セス

第六十條 贖物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判ス
 ル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審判已ニ終
 リタル後ハ民事裁判所ニ非ラサレハ之ヲ請求スル
 コトヲ得ス

〔註解〕贖物ノ還給損害ノ賠償ハ民事ノ性質ナレモ刑事
 裁判所ニ求ムルハ其犯人ヲ裁判スルニ付テ便利ニ從
 テ取扱モノナリ然レモ其刑事ノ審判既ニ済ミタル上
 ハ民事裁判所ニ於テ請求スルハ當然ノコトナリトス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贖物ノ還給損害ノ賠
 償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ
 爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟
 ノ程式ニ從フ可シ

〔註解〕刑事裁判ニ付テハ未タ文例用紙ヲ定メサルヲ以
 テ通常ノ文書又ハ詞ニテモ贖物ノ還給等ヲ求ムル

コト

ヲ得ルト雖民事ノ手續ニ從テ請求スル時ハ訴答文
例ノ書式又ハ訴訟用譯紙ヲ以テ其程式ニ從テ可キモ
ノトス

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時
ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

〔註解〕贓物ノ還給損害ノ賠償ハ民事ノ性質ナレハ縱ニ
犯人死亡スルト雖ニ其義務ノ消散スルノ理ナシ何ト
ナレハ相續人ハ總テ死者權利義務ニ交ハルヲ以テ其
財産ヲ相續スル者ヨリ償却スヘキ者トス、彼ノ第廿條
ニ於テ罰金ノ宣告ヲ受ケ未ダ完納セシテ死亡シタ

ル時ハ之ヲ相續人ヨリ追徴セサルハ罰金ハ固ト輕罪
ノ刑ニシテ民事ノ性質ト異ナレハナリ

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタ
ル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判
所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得

〔註解〕本條ハ刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償
ヲ命セラレタル者其命ヲ執行セサル時ハ更ニ民事裁
判所ニ訴ヘ身代限ノ處分ヲ請求スルモノトス何トナ
レハ此場合ニ於テ既ニ刑事ノ審判ハ終リタルモノニ
シテ則チ第六十條ノ主義ニ同シ又從來刑事上ノ身代

限ハ一時ノ資力ヲ徴スルニ止リヨレモ民事上ノ身代
限リハ縦ハ其賠償ニ充ルコト能ハサルモ其子孫ニ至ル
迄請求スルコトヲ得ルハ益アリトス

刑法附則註解終

正誤

- 八ノ丁九行目 埋葬ノ下(地)ノ字ヲ脱ス
- 十一ノ丁十一行目 徒則ハ(徒刑)ノ誤リ
- 十七ノ丁七行目 犯罪ノ(犯)ヲ脱ス
- 廿七ノ丁三行目 如ノ下(ク)ノ字ヲ脱ス
- 廿九ノ丁一行目 ルノ下(ニ)ノ字ハ削
- 卅四ノ丁二行目 (証之トシテ)ハ(之ヲ証トシ)ノ誤リ
- 四十ノ丁初行目 勸勵ハ(勸勵)ノ誤
- 四十一ノ丁初行目 ヒノ字ハ削
- 四十四ノ丁四行目 財ノ下(産)ノ字ヲ脱ス
- 四十六ノ丁十一行目 (地)ノ字誤植
- 五十二ノ丁三行目 給當ハ(給與)ノ誤リ
- 五十四ノ丁六行目 輾轉シテハ(輾轉トテ)ノ誤リ
- 六十一ノ丁十三行目 (一)以下ハ六十二ノ丁初行ニ續ク
- 六十二ノ丁八行目 死者ノ下(ノ)ノ字ヲ脱ス 全 交ハ(代)ノ誤リ

明治十五年三月出版御届
同年同月發兌

〔定價金廿錢〕

註解者

京都府平民
松井直誠
山城國愛宕郡阿岐村
第十五番地

出版人

京都府平民
中西嘉助
上京區第廿七組押振町
第廿六番地

印刷

京都府御用
小川活版所
同區同組同町

2 x 847

六十六

發賣人

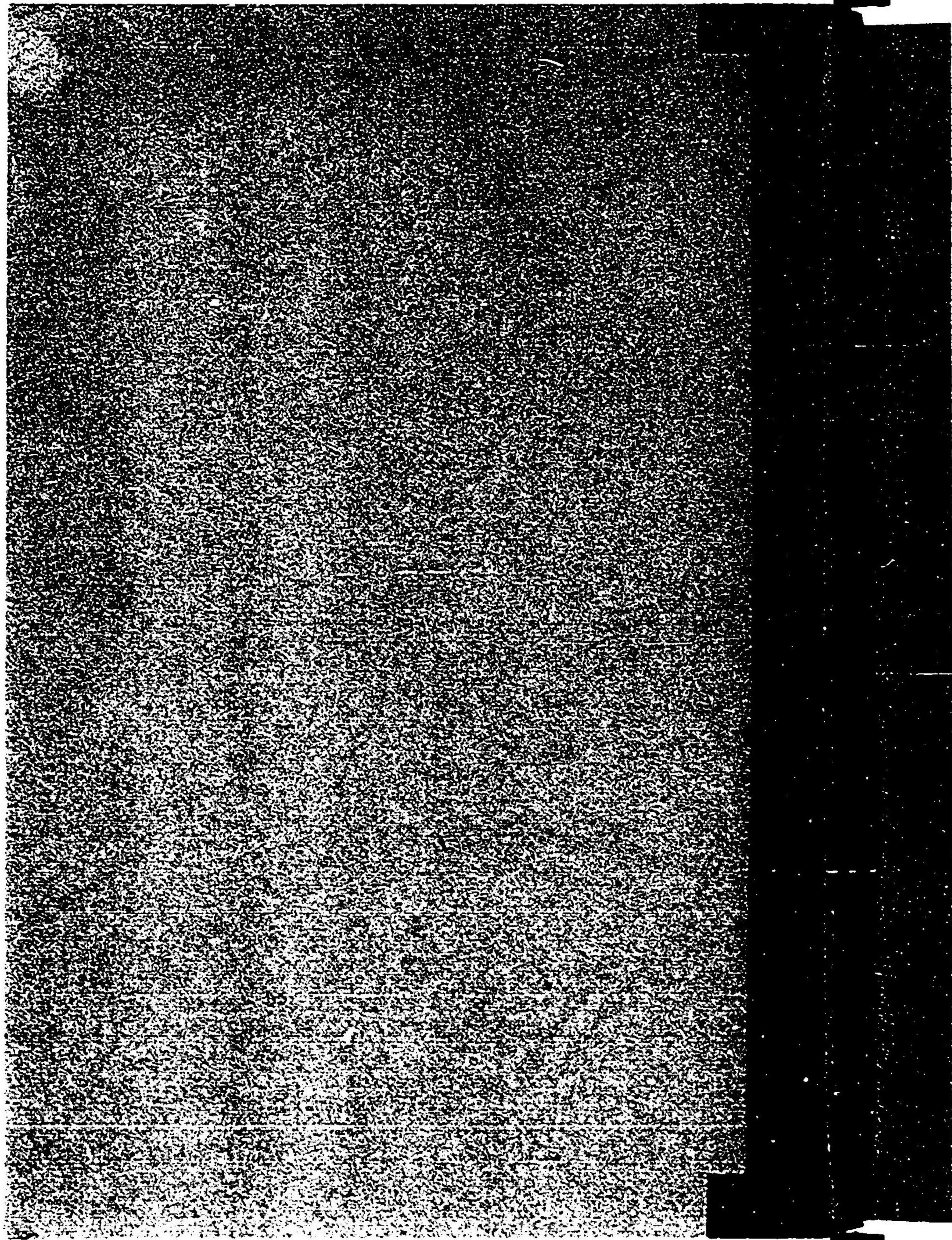
上京區第卅組等持寺町

河村龜太郎

下京區第六組石橋町

福井源治郎

全





刑法附則註解
松井直誠

035940-000-9

特47-382

刑法附則註解

松井 直誠/著

M15

BBP-0538



CS

